

事務事業名	心理相談事業					☐ マニフェスト関連		☒ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
施策名	23	子どもを見守り、育てる地域づくり				所属係	健康推進班	課長名	山戸宇機夫
基本事業名	90	相談支援体制の充実				担当者名	福本 美恵子	電話番号 (内線)	242-1183 2166
予算科目	会計 1	款 4	項 1	目 6	事業 65	法令根拠	母子保健法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 H5 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 乳幼児の発達について、心理相談員・臨床心理士が相談に応じ、必要時は発達検査を行い発達を促すアドバイス等を行なう。また必要者には医療機関や療育機関の紹介をしている。 (業務の内容) 心理相談員・臨床心理士の確保及び契約書を作成し、契約を行なう。年間出勤予定表を調整し作成する。場所の予約を行なう。対象者へ予約の連絡調整を電話する。相談場所の設営を行なう。心理相談セットの補充・準備を行なう。相談後のミーティングを行なう。 (内訳) (消耗品費)、委託料						心 総 投 入 量	事業費 内 訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	1,094
								事業費計 (A)	1,094
								正規職員従事人数 延べ業務時間	2 900
								人件費計 (B)	3,573
								トータルコスト(A)+(B)	4,667

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

回数57回 相談者延人数188人

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

回数80回

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

発達相談を必要又は希望する乳幼児と保護者

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

乳幼児の発達を促し、健やかに成長する。又、保護者の育児不安が軽減ができる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

子育ての不安を解消できる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 相談者数	人
イ 相談回数	回
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 合志市民乳幼児	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 相談者数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 相談件数	件数
イ ファミサボ利用件数	件数
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	630	630	630	1,094	1,222	1,222	1,222
			事業費計 (A)	千円	630	630	630	1,094	1,222	1,222	1,222
	人件費		正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	2
			延べ業務時間	時間	800	800	840	900	900	900	900
			人件費計 (B)	千円	2,000	2,000	3,335	3,573	3,573	3,573	3,573
			トータルコスト(A)+(B)	千円	2,630	2,630	3,965	4,667	4,795	4,795	4,795
活動指標	アイウ	人			188	200	200	200	200		
		会			57	80	80	80	80		
対象指標	アイウ	人			6300	6300	6300	6300	6300		
成果指標	アイウ	人			188	200	200	200	200		
上位成果指標	アイウ	件数			188	200	200	200	200		
		件数									

合志市

事務事業名	心理相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	--------	-----	-------	-----	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	社会情勢の変動とともに母子保健を取り巻く環境も変化し、これに伴う育児の不安やニーズは増大していく中で、菊池保健所で行われている2ヶ月に1回の精神発達相談では、ニーズが増大する中で早い段階での親の不安の解消・早期からの児に合った発達の支援ができないため、平成5年度より
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	育児不安を持つ母親及び発達に特徴を持つ子どもが増加傾向にあるため、心理相談を希望される保護者や心理相談を必要とする子ども達も増加しており、現在の相談回数では不足・タイムリーに相談が受けられない状況である。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	相談者より、この相談があるので合志市から転出はできない。との意見あり。子どもへのかかわり方が開けて良かった。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 意図の「乳幼児の発達を促し、健やかに成長する。又、保護者の育児不安が軽減ができる。」ことにより、結果の「子育ての不安を解消できる。」ことに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 身近な地域で、タイムリーに専門職への相談ができるため。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 対象意図ともに現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 相談回数が不足している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 相談の場が無くなると、育児不安の増加につながり、児の健やかな発達に影響を及ぼすと思われる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 専門的な相談のため。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 必要最低限の事業費で行っている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 必要最低限の専門職と職員で行っている。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 相談料は無料だが、希望者が受けれる相談のため。

合志市

事務事業名	心理相談事業	所属部	健康福祉部	所属課	健康づくり推進課
-------	--------	-----	-------	-----	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

育児不安を持つ母親及び発達に特徴を持つ子どもが増加傾向にあるため、心理相談を希望される保護者や心理相談を必要とする子ども達も増加している、現在の相談回数では不足しタイムリーに相談が受けられない状況があるため19年度は、相談回数を増やした。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

相談回数を増やし、タイムリーに相談が受けれるようにする。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

専門職(心理相談員、臨床心理士)の確保が難しい。予算(人件費)の確保が必要。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項